

2021年度「水俣・熊本みらい基金」助成事業報告書

企画テーマ	地域の不要材となっている竹を熱エネルギー資源として活用するプロジェクト
取り組み実施期間または日時	令和3年10月～令和4年9月

【目的】 ハイブリット車や電気自動車の購入、自然エネルギーによる発電を行っている電力会社への切り替えと活動協力は、田舎でも徐々に進んでいる。概ね電気を使う事でカーボンニュートラルを実現するという事である。知っていても地域の人たちの関心は、それ程高まっていない。受け身の活動が多く、積極的な関りが持てる活動になっていないためだと考えられる。また、バイオマス発電、風車や太陽光発電は、その建設や設置について弊害もたくさん抱えている。都市部のカーボンニュートラルのために犠牲が強いられるという意識も芽生える。

経済林や田畑に浸食する竹林の増殖は、地域の環境問題でもある。地域の不要材である竹を伐採し、竹炭にしていく活動とカーボンニュートラルのための活動は、竹炭をエネルギーとして利用すると、その互恵的な関係が明白になる。自らの手で竹を伐採し、竹を熱エネルギーとして活用する活動は、環境保全と積極的にカーボンニュートラルに関わる活動だ。関われば関心が必然的に高まる。

今年度の事業では、容易に安全に竹炭を熱エネルギーとして生活空間に取り入れるためペレットストーブを生活の場に設置し、実証実験を試みたい。

【内容】

- ① コロナ禍で人材が乏しいため、地域住民やボランティアで可能な限りの竹林の間伐、竹炭を作った。

- ・間伐した竹を窯のサイズに合わせて玉切り



- 玉切りした竹を6~8に割り、節の部分を取り除く



- 準備のできた竹を窯になるだけ隙間を作らないように詰め込み、着火



- 平均で20時間程度で白煙は見えなくなり、窯を閉じる



② ペレットストーブを水俣浮浪雲工房に設置した。



ストーブは、設置できたが、燃烧室内に竹炭を注入する装置により発生する粉炭が、横に寝かした状態の吸排気用煙突から、時々排出してしまい、改良が必要である事が分かった。吸排気を循環できるような仕組みを途中で配置する必要が出てきた。風呂用、室内暖房用の火鉢を使って、冬を過ごした。T シャツで過ごすようには温かくなれないが十分に室内を温めてくれる。2年間灯油の購入使用はせずに過ごしている。

③ ペレットストーブ用に竹炭を破碎する時に発生する極小の破碎竹炭を粉体にまで加工し、食用に利用する試みを行い、竹炭グラノーラと言う商品を開発した。NPO植物資源の力の定款で販売ができないため、新しい雇用の場の創出を目的に会員の一人に委譲し、販売が始まった。

・商品化された竹炭グラノーラ



竹炭を破碎する時に必要以上に細かく破碎されたモノが発生する。その利用について2年前、地域の方から食品としての利用が考えられないかと提案を受けた。数量は、少ないが数々の農産物を生産している地域であるため、それらの農産物と組み合わせグラノーラを作りたいことを思い立った。特産の寒漬け大根、小魚や海藻などの地域資源を組み合わせ、開発にたどり着いた。

- 地域資源をふんだんに使ったグラノーラ、竹炭の粉碎



- 皆で意見を出し合った。水俣道の駅に置いてもらった。



【備考欄】

竹炭グラノーラについては、地方局であるがTVの取材を受けた

<https://youtu.be/1ckMj50dwe4>